

ソフトウェア

説明

ソフトウェア情報: Windows 11 (64-bit) and Windows 7/10 (32/64-bit).



番号	項目	機能の説明
1	メニューバー	クライアントの基本操作を行うためのメニューです。IP アドレスの設定や、デバイスのファームウェアアップグレードなどを実行できます。
2	クイックツールバー	複数デバイスの一括データ収集の開始／停止、画面レイアウトの切り替え、デバイスによるコード読み取り件数の確認、ログ情報の表示などを簡単に操作できます。
3	カメラ設定バー	デバイスの接続／切断、パラメータの設定、IP アドレスの変更など、デバイスに関連する各種設定を行うことができます。
4	プレビュー・ウィンドウ	デバイスがリアルタイムで取得している画像やアルゴリズムの処理状況を表示します。動画の確認、画像のキャプチャ、補助線(クロスライン)の表示なども可能です。
5	履歴および画像バッファ・ク	<ul style="list-style-type: none">・クライアントが読み取ったバーコード情報をリアルタイムで表示・デバイスで取得した画像をキャッシュとして保持・表示します。

Step1: デバイス接続

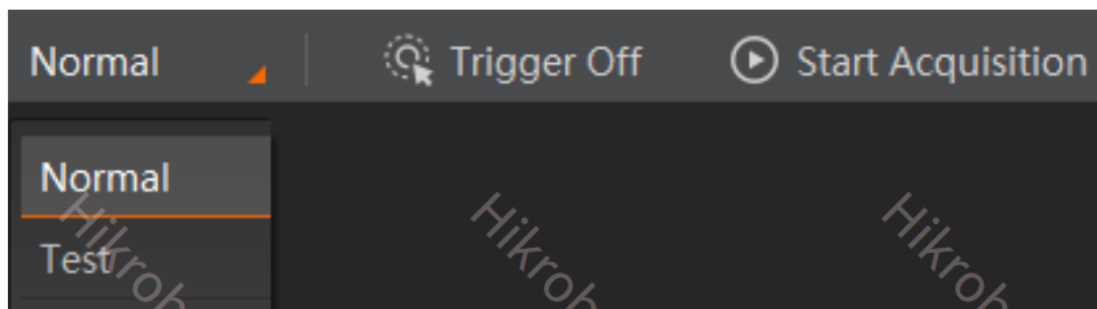
デバイスと接続して、表示されたデバイスをダブルクリックしてください。

Step2:動作モード

プレビューウィンドウ左上のドロップダウンメニューから、デバイスの動作モードを選択できます（下図参照）。

動作モードは以下の 2 種類があります：

モード	説明
テストモード	JPG／BMP／RAW 形式の画像に対応しています。デバイスは取得した画像データをリアルタイムで出力し、同時にバーコード情報も表示されます。RAW 画像の生成については「キャプチャ設定」を参照してください。 主にデバイスの設定や画像品質の調整時に使用します。
通常モード	JPG／BMP／RAW 形式の画像に対応しています。デバイスがバーコードを認識した後、画像データとバーコード情報を出力します。 設定や画像調整が完了した後、実際のバーコード読み取り運用時に使用します。



Step3:オートフォーカス

上部バー「オートフォーカス」を押して、ピント合わせなどを自動調整できます。

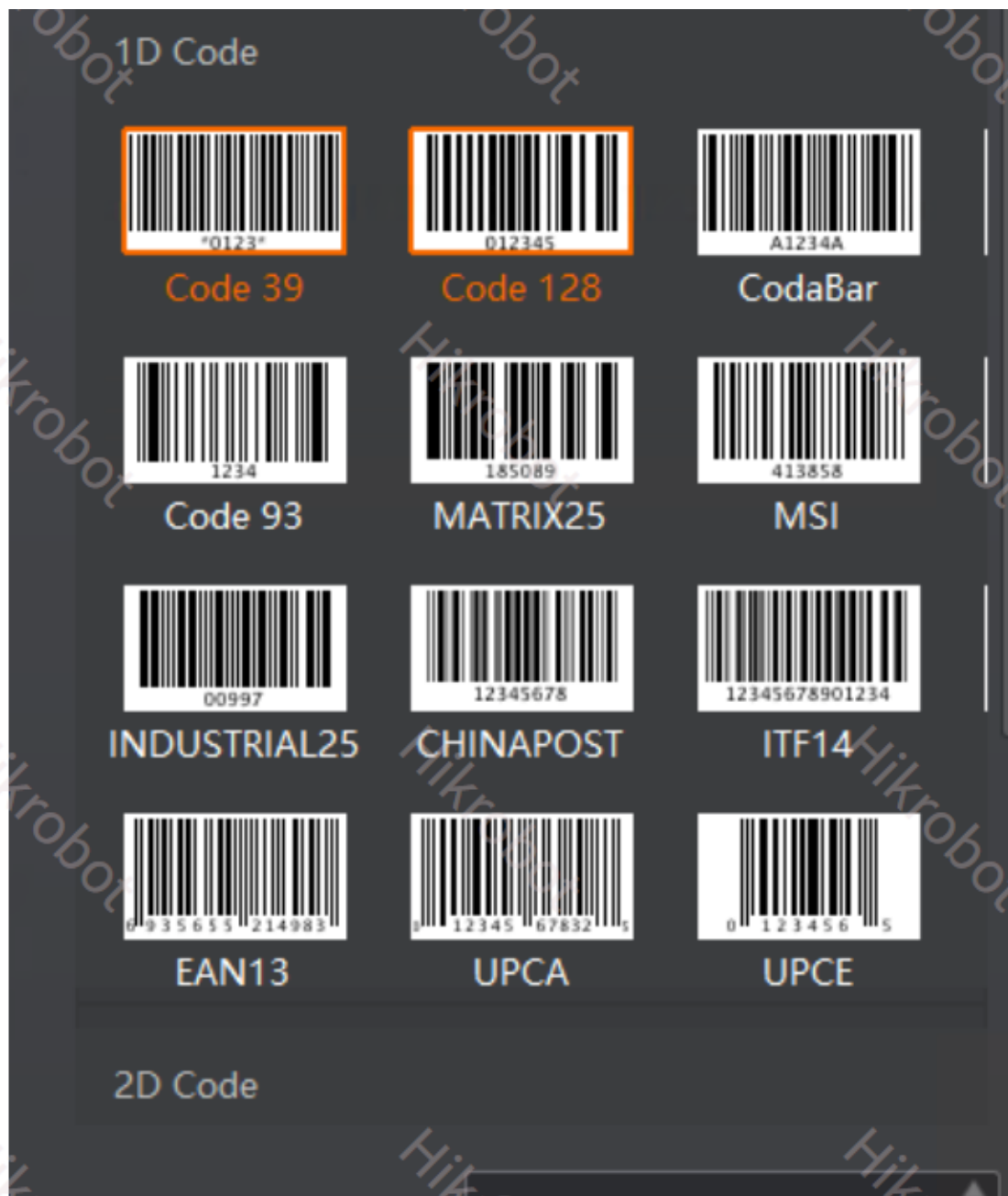


Smart Tune ウィンドウ右下の「Save to polling library」ボタンをクリックし、保存先のポーリングライブラリを選択してから「Save」を押すことで、現在のパラメータ設定をライブラリに保存できます。

また、一部のデバイスでは、Smart Tune の初回実行時にリアルタイムの画像が表示されます。再度ボタンを押すと、画像表示を終了します。

Step4: アルゴリズム

「アルゴリズム設定」をクリックし、読み取り対象のバーコードを追加します。

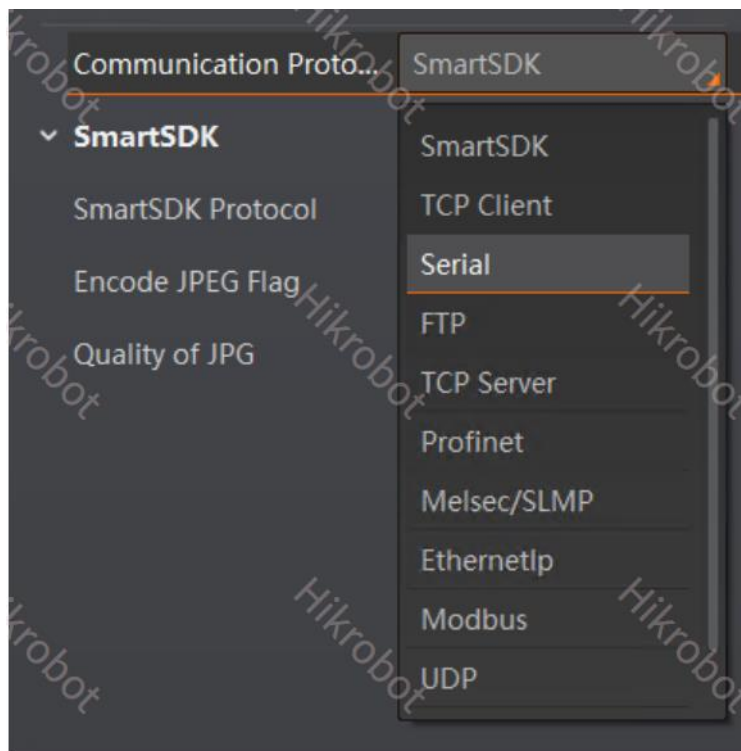


Step5: 入力出力 I/O 設定

入力および出力の各種パラメータを設定します。

Step6: 通信設定

「通信設定」をクリックし、データ伝送に使用する通信プロトコルの選択および関連パラメータの設定を行います。



Step7: データ処理

コード読み取り結果の表示とレポート出力

デバイスがバーコードを正常に読み取った後、以下の機能を通じて画像および解析結果の確認、画像の保存、読み取りレポートの出力が可能です。

1. 読み取り結果のリアルタイム表示

デバイスがバーコードを読み取ると、「プレビューウィンドウ」にリアルタイムで画像が表示されます。

2. 画像の保存とキャプチャ機能

デバイスのプレビュー画像は「画像キャッシュ」ウィンドウに自動的に保存されます。キャッシュ数は設定可能です。

「画像キャッシュ」ウィンドウ上部のツールバーから、次の操作が可能です：

単一画像キャプチャ(シングルキャプチャ)

連続画像キャプチャ

また、「ビデオ／キャプチャ設定」では以下の設定を行います：

保存先パス

画像形式 (JPG／BMP／RAW など)

ファイル命名規則 など

3. 読み取りレポートのエクスポート

「クイックツールバー」>「一般設定」で「読み取りレポートの自動保存」を有効にすると、デバイスが読み取ったコードデータは自動的にデータベースに保存されます。

保存されたデータベースファイルを表示するには、「ショートカットツールバー」から「コード読み取りレポート」を開き、対象のデータベースファイルを選択します。

デフォルトの保存パスは ...¥WebQualityReport です。

選択後、該当するコード読み取りレポートが表示されます。

以上